

辰口校下婦人会タウンミーティング

日 時 令和5年11月13日（月）19:00～20:30

会 場 能美市役所大会議室

参加人数 18名

1. 開 会

2. 辰口校下婦人会長ご挨拶

3. 市長市政報告

【市長】

○はじめに

タウンミーティング、何回もやらせていただけてるんで、大体能美市の方針というのは分かっていただけますよね。いろんな施策があるんですけども、全てが移住・定住の促進につながるということでやっています。

自治体の繁栄の勢いというのは、いろんな指標、数値で分かるんですけども、やはり人口が増えているということが自治体が元気なのかな、それから伸びているのかなということが分かっていただけるんじゃないかなということで、この移住・定住の促進ということをやっています。

○市を取り巻く状況について

令和5年度予算は約268億円ということで過去最高です。市税がこのところ大変好調でありまして、令和元年度に初めて市税の収入が90億円を超えました。令和4年度、昨年度は最高額で90億9,200万円まで伸びてきました。この背景にあるのは、企業誘致が好調であること、それから地元の産業も好調であるということから、こういった関連の税金がたくさん収められてきているということで、市税が好調に推移をしています。

先ほど移住・定住の促進という話をしましたが、人口というのは2つの要因に分かれます。一つは社会動態、もう一つは自然動態。引っ越していく人、引っ越してくる人

がどれだけいるかというのが社会動態。どれだけの赤ちゃんが生まれたか、どれだけの人が亡くなったかというのが自然動態です。現在、能美市だけでなく、日本全体が大幅な自然減です。生まれてくる赤ちゃんよりもお亡くなりになる人が多い。能美市は社会増です。引っ越していかれる人よりも引っ越してくる人が多いんです。ただ、コロナ前までは能美市は人口が増えていたんですけれども、コロナになりまして赤ちゃんが生まれてくる人数が大幅に減りました。それから、能美市は外国人の人が多いんですけど、外国人が戻ってこられなくなったんです。先端大だとか、会社で働く人が。そんなことから今ちょっとだけ人口が減少傾向に入っています。

いろんな施策を施しているんですけども、今最も重要視しているのは災害対策です。昨年の8月4日、1時間当たり86ミリという過去経験したことのない大雨に見舞われました。能美市全域の図なんですけれども、水色に記したところが溢水をした、床上・床下浸水が起こったというところであります。それから、内水被害といいまして市内に流れる川もどんどんオーバーフローしたことから180件の床上・床下浸水があって、農地に20ヘクタールの水が入り、農地12ヘクタールの土砂が入ったと。川をせき止めて水位を上げて田んぼに水を入れる、小さいダムみたいのを頭首工というんですけど、鍋田川にありました15の頭首工が全部破壊されました。

○令和5年度の取り組みについて

令和5年度の予算編成の方針と目的は、まず災害対策、市民力・地域力の強化、知名度・認知度の向上、自然動態の増進、GXの推進というこの5つの方針と目的を掲げて今取り組んでいて、これを少しずつ皆さんにご説明をしていきます。

災害対策ということで、今ほど被害に遭った川やいろんな箇所を復興・復旧させる。そして、同じ雨が降っても二度と同じような被害が起こらないように、川の幅を広げたり、護岸を高くする。水をためるところを造るということをやってきました。

避難所も、これまで過去経験したことのない雨が降ったということから、避難所の周りで水がついて避難所に行けなかったという事例があったものですから、避難所の見直しをしました。

それから、我々行政だけではなかなか市民の皆さんの安心・安全を確保できないということから、市内のいろんな企業さんに避難所として使わせてもらう、あるいはブルドーザーやショベルカーなどを貸してもらうという協力協定を結んでいます。自然災害以外にも

交通事故対策ということで、これは宮竹小学校エリアなんですけれども、抜け道でとてもスピードを出して通学路を走る車が多いということから、ゾーン30プラスという県内初めての取組をして、町内を30キロ以上のスピードを出せないようにしてきました。

資機材、ドローン、はしご車を買ったり、女性でも簡単に患者を救急車の中に入れられるような装置がついた救急車を購入したりしました。皆さんに安心・安全に避難してもらえる、こんな状況の場合はこんな行動をしてほしいというガイドブック、皆さんのご家庭にはもう配布済みなんですけれども、昨年の大雨を受けてもう一回見直しをして新しいのを作っています。

昨年の8月4日というのは朝の5時半ぐらいに大雨が降った。当日は夏休みだったんで、子どもたちは家にいた。ところが、大雨が降ったけれどそんなに大きな被害にならないと思って働きに行った人がいる。金沢に行った人もいれば、東京に行った人もいるかもしれない。例えば日中、お昼ぐらいに地震が来ました。高齢者が1人いました。その人は動けません。誰も助けてくれないじゃ困るんです。だから今、一人一人にどんな災害が起きたときに、どうやって逃げるか、どこへ逃げるかというのを、一人一人そういう避難計画をつくる、個別避難計画をつくる、これを今つくり始めています。

昨年の大雨で大きく被害を受けたところから順番につくっていったんですけど、これ結構大変なんです。誰が助けてくれるかなんです。やっぱり働きに行っていたら誰も助けてくれません。そうすると、民生委員・児童委員さんの力も借りなければならぬとか、民生委員・児童委員さんも働きに行ってる人もいらっしゃるわけで、まさにこういった避難計画をしっかりとつくっていく必要があるんですけど、大変難しい課題に今取り組んでいます。

防災フェスタといいまして、こういった防災というのは難しいとか、なかなかずっと入ってこないっていうケースがあったりするんで、防災フェスタを開催しながら、市民の皆さんにもっと分かりやすく、じゃ、やってみようかなと思ってもらえるようなきっかけになるようにやっています。

鍋谷川に関しては一番被害が多かったのが和気小学校前の寺畠地区が一番被害が多かったんです。今この辺りの河川、幅を広げて、それからもう少し深くしようという取組が始まっています。鍋谷川というのは梯川に流入してるんです。梯川の水が多いと、この水が鍋谷川にバックする可能性があることから、鍋谷川の水が梯川にスムーズに入っていくような工事も始まっています。

8月4日の大雨のときもそうなんですけど、ほとんどのこういった避難情報というのは防災行政無線を使って皆さんのところに流していました。ほとんどのご自宅がキッチンや居間に置いてあると思うんですけど、その場所にいなかったら聞き取れないということで、能美市LINEというのをつくって、文字で皆さんのほうにお流しするようにしています。この能美市LINEというのは、災害情報だけでなく能美市のいろんな情報をお流しするようにしていて、お友だちになっていただければいろんな情報が流れます。

それから、公共施設も古くなっている。学校、市内に11の小中学校がありますけれども、築50年以上、全体の35%、面積比で。これを順番に直していかなくちゃならない。保育園も15あって、今一つ民営化になりましたけれども、あと2つやりながら、古い園舎を新しくしていきます。公園とか公民館も結構古いとか、あと案内看板も結構古いんです。いまだに「寺井駅」と書いてあるのがあるんです。高速道路のインターチェンジが書いてなかったりするのがあるって、直していかなくちゃならないんですけど、全部で3,000個ぐらいあります。案内看板なんですけど、今、皆さん目的地に行くのに地図を広げて案内看板見ながら行きませんよね。大体ナビですよ。だから、この案内看板も昔みたいに立てるんじゃなくて、何かもうちょっと機能的な案内看板に変えていこうということで取組をしていますが、これも結構お金がかかるんで、どの順番でやっていけばいいのか悩んでいます。

それから、市民力・地域力の強化、これは能美市の強みです。市民の皆さんが能美市のことを大好き、能美市のために何かしたい、地域の皆さんも地域と一緒に自分が住んでいるところを何とかしたいというのがこの市民力・地域力といいまして、この能美市は市民力・地域力が大変高いそんな市だと思っています。

ただ、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴って、コミュニケーションが取れなくなりました。そんなことに伴って、市内に74の町会・町内会があるんですけども、最近、婦人会とか女性会が解散をする、だんだん少なくなっているところもあったり、それから壮年団も本当に今人数が少なくなっている。これはすごい危機だと思っています、町会の運営ができなくなってしまうのじゃないかという思いをしていたり、ボランティアで誰か助けてほしいとか、困ってる人に手を差し伸べる人もだんだん薄くなってくるんじゃないかと、この市民力・地域力を何としてでも高めていかなくちゃならないということで、今いろんなことをやっています。やっぱりコミュニケーションを取る、人と人とが集う場所がやっぱり多くないと薄れていくということから、今年は加賀立国・能美誕生1200年ということでいろんなイベントをやっています。

いしかわ百万石文化祭ということから、市内では11のプログラムをつくっているいろんなことをやっています。もう一つは、今年、寺井、湯野、粟生、和気、宮竹小学校が創立150周年を迎えました。ここでいろんな式典をやったり、イベントをやっていて、やっぱり子どもたちが集まっていろんなことをやってくれるのは本当私にとってはうれしい。それぞれの小学校で、その子どもたちが自分たちの町のことをPRするんです。

土曜日に宮竹小学校がラストを飾っていました。宮竹小学校では、児童が「宮竹小学校大好き」というテーマに基づいて、宮竹小学校エリアにあるものを、自分たちの目と耳で調査をして、それで発表してくれる。そんなことがやはり市民力・地域力につながっていくと思っていますし、そこには保護者もたくさん来ていて子どもたちの発表にすごくみんな感動していた。そんなことが、やはりそのエリアを活気づけることなんじゃないかなという思いをしていて、それが今年はこの5つの小学校で開催をされました。

知名度・認知度です。能美市をPRしていく。能美市へたくさん観光客に来てもらいたい。能美市の魅力を感じてもらいたいということで、ホームページ等々でいろいろコンテンツをつくってPRしてるんですけど、そこにアクセスしてもらえないと能美市の魅力に触れてもらえないんです。全国に1,700の市町村があるんですけど、能美市ってどこにあるだって、知らない人結構いるんです。私が国土交通省とかで名刺出すと、「のうみ市さんですね」って、のみ市って読んでもらえない。能登は「のうと」とは読まない。「のと」と読んでもらえますね。いかにしてこの能美市の知名度を上げていくか。これを結構やっています、まず能美市出身者で、世界的に一番名前が知れた方はやっぱり松井秀喜さんだろうということで、結構いろんなお願いをしてやってもらっています。パネルを作っていろんなところに設置したりもしています。

そして、シナモロールです。シナモロール、ご存じでしたか。サンリオという会社のナンバーワン人気キャラクター。キティちゃんとかありますよね。それから、小松市がポムポムプリン。ポムポムプリンが第2位。キティちゃん、5位なんです。何せシナモロール、ナンバーワン。シナモロールを応援大使にして、いろんなPRをしてもらっています。

たった15秒のコマーシャルですけど、松井秀喜さんが生涯で初めてアフレコをした。要するに自分の声を入れたということで、全国ニュースで何回も繰り返し紹介され、大変話題になりました。それから、イオンシネマ白山で映画が始まる前に、5か月間ぐらい、10月末までずーっと流していました。そのほかにも多くの皆さんに能美市に訪れてきてもらう、それから能美市民にも楽しんでもらうということで、いろんな設備や施設を整備して

いきたいと思っています。

自然動態の増進ということで、これは2つあります。1つは、子宝子育て支援です。赤ちゃんを産みたくなる、もう一人赤ちゃんを産みたくなるようないろんなことをやってきています。相談できる窓口を充実させたり、産んだ後もいろいろとお困りになることもおありになるだろうということから、いろんな支援をしています。それから給食費の無償化、これは後から提言でいただいておりますので、そのときに回答したいと思います。

健康寿命の延伸でどんどん長生きしてもらおう。健康診断行ってくださいっていろんなところにポスターを貼ったんです。最近、いろんな悩みを持ってらっしゃる人が多くなってきている。いろんな悩みというのも、お一人で幾つも悩みを抱えている。それから、ご家族でいろんな悩みを持った人が一緒に住んでいるというようなケースが多くなってきている。一般的な市役所というのは相談する窓口がばらばらなんですね。専門知識を持った人が回答する必要があるので、いろんな悩みに対して、それぞれの悩みに対応するセクションがあるんですからそれはしょうがないんですけど、それだとあっち行ったりこっち行ったりしないといけないということで今、ワンストップで相談できる様体制を整えていたり、ワンストップで相談をしてもらえる窓口の整備なんかもしています。

健康ロードって北陸鉄道能美線が走っていた線路の跡です。桜の木が植えられてとてもきれいな場所になっていて、多くの皆さんがそこを歩いて楽しんだり、通学路としても使ってもらっています。そこを一体的に今整備を始めています。全長16kmあるので、なかなか一気にはやれないということで、2025年秋の完成を目指してやっています。この年は、能美電が開通して100年、配線になって45年、能美市制誕生20周年という記念すべき年なので、これに合わせて今やっています。駅があった場所もここは駅があったというのが分かるように、看板を作ってQRコードにかざすとその駅の周辺にどんな施設があるかというのが分かるような、そんな道路に変えていきます。

ゼロカーボンシティというのは、これ全世界で取り組んでいる内容なんですけど、2013年度に排出しているCO₂を基準に2030年度に半分に減らささい、2050年にはゼロに減らささいということが世界中で取組が始まっています。能美市もゼロカーボンシティ宣言をして今やっています。市役所にも電気自動車の充電できるスポットをつくったり、庁舎の照明をLEDに替えていっています。カーボンニュートラルガスといいまして、市内の3つの体育館ではカーボンニュートラルガスを使っています。どんなガスかというと、実は値段がちょっと高い。その高い部分を使って、世界のいろんなところに木を植えることによって

CO₂を吸収させようというそんなガスを、カーボンニュートラルガスというんです。

P P Aモデルというのは、太陽光発電を使ったエネルギーです。電気はためられないものだと思うんですけど、太陽光発電は真夏の昼間だったら電気をどんどん発電してくれるんですけど、冬や夜は発電しないんです。その差を電池を使って埋めよう。発電したときに、電気が余るので電池の中にためておいて、発電しないときに電池に貯めた電気を使おうというような取組を今どこかでやれないかと考えています。

のみバス。公共交通を使うというのも環境に優しい取組です。多くのタウンミーティングをやると、のみバス不便、ダイヤ、ルートを何とかしてほしいと言われるんですけど、乗ったことある人は本当に少ないんですね。ただ、学生さんだとか、免許を手放した人たちには、のみバスというのは大変重要な交通手段で、来年度に向けてまたダイヤ、停留所、ルートの見直しをしています。ちなみに、のみバスというのは、「のみバスGO」というアプリを入れると自分の乗りたいバスのルートだとかダイヤはすぐ調べられるし、今どこを走っていて何分後に来るとか、混雑状況も分かります。1回100円です。連携バスから循環バスに乗り換えても100円で乗れます。ぜひ一度、皆さん乗ってみていただければ。バスから見る景色は車で見る景色とはまた違いますので、体験をしていただければと思います。

○インクルーシブシティの取り組みについて

最後に、能美市は今、デジタル技術を使ったいろんな取り組みをしています。それを能美スマートインクルーシブシティと言っています。インクルーシブというのは、誰一人取り残さない、仲間外れにしない、いわゆる地域共生社会という意味です。能美市に住んでいる健常な人も、障がいをお持ちの人も、高齢者もお子さんも外国人も、全ての人たちが安心・安全、快適にデジタルの力を使って暮らしていってもらおうというのが能美スマートインクルーシブシティであります。高齢者や障害をお持ちの方、子育て世代、子どもたちが、こういったいろんな場面でデジタルの力を借りて快適に暮らしていってもらおうということです。

どんな取り組みを進めているかという、例えば高齢者の方が病院に入院している。退院して自宅で療養を始めたとする。かかりつけ医院さんとか、ケアマネさんとか、いろんな人がこの人の世話をします。ところが、病院によってカルテが別だから、かかりつけ医さんはこの人は別の病院でどんな病気をしたかカルテを見れない。それから、どんな薬飲んでいるか分からない、処方箋分からない。これをクラウドに入れておいて、必要なとき

に必要な情報を取り出せるようにしましょうということを今始めつつあります。準備しています。

それから、この人が具合悪くなっちゃった。隣の人に「救急車呼んで」って言って呼んでもらった。救急隊は病院に連れていくのに、この人がどんな薬飲んどって、どんな病気かかっと思ったかというのを本当は知って病院に搬送しなくちゃならないんですけど、この人具合が悪いから言えんわけですよ。なので、こういったクラウドからこの救急隊も情報を取れるようにしようというようなことの今準備を始めています。

I o T家電の活用ということで、最近の家電は喋るのがあるんです。ご存じかもしれませんが、しゃべる空気清浄機、つぶやいてくれる。エアコンは「暑くなったので調整してください」とかスマートフォンが言ってくれたり、表示してくれる。空気清浄機等も、部屋の空気を分析して、「最近寝るのが遅いけど大丈夫」「体調に異変はありませんか」と知らせてくる。この次に考えているのは、災害時の防災行政無線は先ほど言ったように、キッチンや居間に置いてあると寝ていたら聞こえませんよね。部屋にこれが置いてあると「能美市に大雨・洪水警報が発表されました」「避難指示が発令されました」ということが分かる。そして、エアコンのスイッチを3日間入れなかったとすると、例えば東京に住んでいる家族に「安否確認できません」という知らせが行くようになっている。市内には約2,600人のお独り暮らしがいらっしゃいますが、まず100人を対象にこういったことをモデルケースとして始めようということを今やろうとしています。今ほど申し上げたのは独り暮らしの高齢者が対象になるんですけど、将来的には全世帯にこういった家電を使ってもらうようにしていこうと考えています。

そんなことをだんだん広げていって、安全・安心、快適に暮らしていって、そして時間を有効に使っていってもらうというようなことをやろうと考えています。

公民館での取り組みです。公民館で今もうW i - F i を使えるようになりました。ここで出前講座、スマホ教室をやったり、eスポーツやゲームをやって、高齢者やお子さんたちが公民館に集って、多世代間の交流ができるようにしましょう。病院が遠い、医院が遠い、かかりつけ医が遠いというときに、近くの公民館に行ってオンライン診療ができるようにしましょう。買物や生活支援ができるようにしましょう。市役所へ行かなくても行政の手続きができるようにしようというようなことを考えています。

市内には74の町会・町内会があって、全部公民館があるんですが、例えば近くにアルビスだとか、銀行だとか、お医者さんがあるところは、多世代間の交流を主にしたそんな設

備をここに入れていきましょう。里山地区はやはりこういったところは遠いので、買物ができるようにしたり、オンライン診療ができるようにしたりと、それぞれの公民館の位置によって特徴をつけながら取り組んでいこうと考えています。

○おわりに

今日のこういった機会もそうなんですけど、いろんなことをやる上で、市民の皆さんの声を直接聞いて、意見をお伺いしながら、こちらからもこんなことをしていきたいんだけどどうだということをお聞きしながら進めていくということで、市民ファースト、現地現場主義という政治信条の下に、いろんな場所へ視察に行ったりしておりますので、今日で足りなければまたお申し付けいただければ、どこでもお伺いしますので、よろしくお願いいたします。

4. 提言

提言 1

【参加者】 住みたいと思うまちへの教育に関する提言です。

若い子育て世帯が住みたいまちを選ぶのは、充実した教育ができるまちです。安心して共働きができる環境を整えることです。自然豊かな緑が残る能美市。特に辰口地区でできる、そういうふうになるといいなと思っています。

まずは小学校放課後の学童保育では、辰口地区ならではの自然を生かした屋外活動ができれば、「のみのみ」ってありますけど、伸び伸びと健やかな体と心の成長を促されて、こうして豊かな子どもたちを育成できると思っています。

また、病気とか様々な理由によって学校へ通えない子どもたち、こちらのほうへのサポートについて、フリースクールとか通信教育制度とか、そういうふうなものはどのようにお考えになっているでしょうか。

【市長】 まずはおっしゃるとおり教育というのはすごく大事だと思います。移住・定住の促進につなげるという点においても、そのまちに住みたいと思ったときに、やはり教育が充実をしているのかどうか、あるいは不登校の状況のはやはりり気になるころだと思いますし、教育を充実させていくというのは大変重要なポイントだと思います。

どんな点を今充実をさせていっているのかといえば、例えばGIGAスクール構想で使

うタブレット、これは全員持っていますけれども、教室の電子黒板、これは県内の自治体に先駆けて全教室に配備をしました。それから、学校の先生だけではなかなか対応できないということもあって、地域の人たちに協力をしてもらって、見守りをやってもらったり、学校に行ってもらって地域のいろんなことを教えてもらう機会、それをコミュニティ・スクールと言っているんですけど、それが大変充実をしていて、表彰を受けたりもしました。そして、登下校での安全を確保するために、先ほど申し上げたようなこともしています。

通信教育という点に関しては、タブレットを今子どもたち持っていますので、もし何らかの理由で学校に来られないという場合でも、タブレットを家に持って帰ってもらえれば学校の先生ともアクセスができたり、学校に行かなくても授業が受けられるということで充実をさせていってまして、そういった子どもたちにも対応できるように授業の内容を充実させて欲しいということで、いろんな取組も始まっています。

フリースクールに関しては、今は民間のフリースクールというのが少しずつ少しずつできていて、能美市内にはないんですけれども、金沢市内に数か所あって、何人かそこに通っていらっしゃる児童さんもいるということは把握をしています。この間もそこへ視察に行ってきたんですけれども、やはりいろんな特徴があって、そこと連携をしながら、学校に来れなくても単位を取って行けるような制度をつくりながら、誰一人取り残さない教育制度を充実させていきたいと、そんな思いをしています。

【参加者】 ありがとうございます。安心して共働きができる環境というのが大事だと思うんですね。そのときに10歳までの教育というのがすごく大事だと聞いています。

今後の将来の生活をしていく上で、10歳までにどのような教育をするかというところが大事なんです。そのときに、学童保育というのがあります。高学年になれば独りでおうちにて、タブレットを持って自分の好きなお勉強をするということもできると思うんです。ただ、小学校1、2、3年ぐらいまではまだ保育園の延長線上の子たちがすごくたくさんいるんですよ。この子たちが、独りでおうちにいるのはかわいそうだから、学童保育に通ってる方は結構多いんです。

私も孫がいるんですけど、学童保育を児童館でやっておりますので、たまたまそこに毎日のように行っていたわけです。そうすると、じーっと見ていたら、外へ行かないんです。室内だけなんです。体育館で遊んでいるんですけど、走っちゃ駄目とかって、けんかしたら駄目、時間だから早く入って。結構そういう駄目、駄目、駄目というのが多かった。児童館の外に行っちゃいけないということをご存じですか。

【市長】 危険だから外には出ないようにしています。

【参加者】 子どもが育つ中で、辰口の緑あふれる中で、そこでも見守る人がいれば、多少危険かもしれない。けれども、自然の中で虫がいたりとか、花があつたりとか、多少転んでけがしたりとかっていうところは、その経験をする中で子どもたちが自然の中で遊ぶという環境ってすごく大事なんです。だから、人がいなかったら人を雇ってください。それから、見守る人の人材が未熟だったら教育してください。だから、そこら辺まで学童保育というのは大事なんですよ。

【市長】 普段の放課後だと時間限られているので、そういった時間は少ないと思いますけど、夏休み中なんかは外で遊んでるはずですよ。

【参加者】 天気のいい1時間でも30分でもいいんです。外に出て遊ぶとストレス解消になる。子どもたちがいかにストレスを抱えて部屋の中にいるか。なかなか外に出て遊ばせてもらえないんですよ、おうちにいても。

【市長】 参考にさせていただきます。

【参加者】 ぜひ屋外で遊ばせるような、人ですね、見守る人、それから見守る人の育成、こちらのほうを、よろしくお願いいたします。

【市長】 見守る人を募集中なんです。本当に今、人を募集しても来ていただけない。

【参加者】 なぜかというところもやっぱり考えていただきたい。正社員であれば、できるかもしれない。責任感を持って。介護士さんとか保育士さんとかと同じようなレベルをもって、子どもたちを大事にしていきたい、何とかしていきたいという方がたくさんいらっしゃると思うんです。

【市長】 お気持ちは私も一緒なんですけれども、保育士も今なかなか募集しても、確保できない。それから、児童館の職員さんもなかなか確保できないというのも実態です。ただ、やっていかなくちゃならないという思いは同じだと思いますので、いただいた意見は参考にさせていただきます。

【参加者】 給料が安いイコール重要視されていないと思う。雇われている本人としては。だけど、期待してる、こんなに子どもが大事なんだよって、将来の能美市を背負っていくのは子どもたちなんです。子どもたちが伸び伸びと、そこで経験したことが役に立てば、将来帰ってくるんです。

【市長】 保育士に限ったことではなくて、全ての職業において同じことが言えるんじゃないかなと思います。ぜひ、能美市の保育園で働いていただけるようにサポートしてい

たいと思います。

提言 2

【参加者】 小中学校の学校給食費が無償化されることについて、今年度の広報のみ8月号の掲載で知りました。物価高騰で家庭の負担を抑えることは大切だと思いますが、食べ盛りの子どもたちにボリュームはどうなるのか、大丈夫かなと気になりました。そこで、市内学校給食の無償化にされる意図をお聞かせいただけたらと思います。

【市長】 無償化は反対ですか。

【参加者】 賛成の面と、反対の思いと両方あります。

【市長】 賛成の面は分かりやすいんですけど、反対はどうして反対ですか。

【参加者】 私は孫もいないし、別に小中学校の子どもがいるわけではないんですけど、私、生まれも辰口なんです。自分が小中学校で食べてきた給食の献立の量と、今の子どもたちの食べている給食を見ると、ボリューム的に少ないと思うんです。

でも、自分だけかなと思ったので子どもさんいらっしゃるお母さんに聞いたら、子どもたちが足りないとか、そういったことは聞かないと。おいしいというふうに、いろんな人に聞いたわけじゃないですけど、じゃ、ボリュームは問題ないのかなと思うんです。

でも今、物価高騰で無料になることはすごくいいんですけど、給食費は原材料の一部負担ということで集めていらっしゃると思いました。だけど今、物価上がっているのに、市の財政の中でも結構膨れますよね。子どもは減りますけど膨れる、そこが心配なんです。少子化で子どもは減ってますが、物価が上がり続ければ結局税金を使う。

【市長】 市の財政を心配していただいて、反対だなというそういうことですね。

【参加者】 そうです。一納税者として。子どもも本当に大事なんですよ。ですけど、さっき言われた、能美市で育って、いい環境で育って、やっぱり外出て戻ってきてほしい、でもやっぱり財政も大事だと思うんです。だから、その両方で気になっているというのはあるんです。

【市長】 私も同じ思いを持っているんです。まず、小中学校の給食費を無償化すると、1年間で2億5,000万必要になるんです。なぜやったかという、今おっしゃったように物価高騰、エネルギー高騰が起こっている中で、一番生活が大変なのは小中学校のお子さんを持っている世帯だろうということから、その皆さんに少しでもゆつくりと生活をしてもらえればなという中で給食費の無償化を判断しました。

課題は、今おっしゃっていただいたとおり、令和5年度は国からの交付金があったんですけど、令和6年度からはその交付金はないんです。それで一般財源から捻出する必要があって、間もなく令和6年度の予算編成を始めるんですけど、まさにその財源をどこから捻出させるかすごく悩んでいます。

限られた予算しかないわけです。どこかを増やせばどこかを減らさなくちゃならない。どこを減らすかというのをまさに悩んでいて、私の心の中を見ていただいたんじゃないかとそんな思いです。量に関してはきちっと決められています。栄養士さんがいて、これだけの量を食べなさい、これだけのエネルギーを摂取しなさいとなっていますので大丈夫です。お代わりもできるはずです。量や栄養面はご心配いただかないで結構ですけど、ぜひその財源を心配していただいて、何かいい案があればまたご意見いただければと思います。

【参加者】 今、新しい給食センター運営されますが、市が運営するんですか、それとも保育所のように民営化、どこかに委託ですか。

【市長】 民営化します、委託します。

【参加者】 なおさら気になるんです。民営化するということは、どうしても利益を求める、民営化された他県で給食がストップしたというのがあって、無償化はいいけれども、せっかく市長が子どもたちのためにしていることが、将来的に大丈夫かなというのがやっぱり気にはなります。

【市長】 民営化した理由というのは、やはりいろんなノウハウをお持ちなんです。民営化したところは県内のある自治体の給食をもう既に提供しているところ、実績があるところですよ。そこへ食べに行きましたけど、本当においしかった。温かいですし、それから栄養のバランスをすごく考えてくれています。

給食をいかに、言い方悪いかもしれませんが、コストを安く作るという面ではいろんなノウハウがあるんです。材料の購入費をどう抑えるかということだけではなくて、生産の効率をどう上げるか、そんなところもあるんです。ただそうすると、今回やろうとしてるのは根上地区と寺井地区の給食をそこで1か所で作ろうとするんですけども、やっぱり量を多く作ればそれだけコスト下がります。

決して子どもたちに迷惑かからないようにしていきたいと思っておりますので、安心をしていただければと思います。

【参加者】 月1回とか子どもたちが食べてる献立を写メって、それをLINEか何かでPRするとか、能美市が使っているLINEのシステムに載せるということも可能であれ

ばどうかと思います。

【市長】 問題ないと思います。みんな気になりますよね。どんな形でできるのか検討します。コドモンがあるから、小学校も中学校も保育園も。1回検討してみます。

5. カフェトーク

質問1

【参加者】 フラワーセンターの跡地に道の駅的な施設ができるということで、とても楽しみにしています。土地もすごくきれいになってきて、進捗を感じてワクワクしています。

今、公表できる範囲でももちろん構いませんので、具体的な構想とか教えていただけるとうれしいです。

【市長】 実はお教えしたくて、一つは新幹線開業に間に合うように準備していたんですけど、新型コロナウイルス感染症で人流が落ちたということと、物価高、エネルギー高で進出するところがなかなか決まっていなくて、ちょっと今苦労しているんです。一生懸命募集をかけているんですけど、なかなかこちらの案と合致するところまでできていなくて、本当は今日何でも言いたいんですけど決まってないというのが現状で、もうちょっと時間ください。

【参加者】 いつもあそこを通っていて、ちょっと粗いけど整地されているし、もう重機もないし。例えばですけど、何か構想がまとまるまで更地にするんだったら、フリマとか道の駅みたいなキッチンカーまつりとか、何かそういう案で商工会とかと協力してできないですか。

【井出市長】 そういったマルシェを使うという案があって、例えば丘陵公園でやったときにすごい人が来てくれたし、里山公園でやったときもすごい人が来てくれた。10月の中旬に能美ふるさとミュージアムで古墳まつりをやったときに隣の室内エリアでもすごい人が来てくれていたので、場所は今のところマルシェはあるので、あそこは出てくれるところを待って、それに合わせて整備していきたいと、そんな思いをしています。

【参加者】 市内の方もそうですけど、市外からたくさんいろんな方に来ていただいて、ここに住みたいなって思ってもらえるところになるといいなと思います。

【井出市長】 おっしゃるとおりで、あの土地っていろんな規制があって、すぐお店とか造れないんですけど、野々市辺りからしばらく白山市入っても店がないし、能美市過ぎて

小松に入るとバイパスなんで、加賀市まで行かないと店はない。とっても魅力的な場所だということで一生懸命売り込んでいるんですけど、なかなかこっちの思いと合致するまでのところがまだないので、もうちょっと待ってください。

【参加者】 よろしくお願ひします。期待しています。

質問 2

【参加者】 のみバスについてですが、小松方面に通う高校生の娘がいるんですけど、帰りのバスがなくて、いつも私の仕事が終わるまで二、三時間小松イオンで待ってもらっています。電車に乗れても能美根上駅からのバスがなくてずっと待っていて、夕方の時間をもっと学生が利用できる時間帯のバスを、例えば電車の到着時間から15分から30分後に出発するバスを出してもらえないでしょうか。

【井出市長】 やります。のみバスをいろいろ見直しをかけているんですけど、今やったコンセプトの一つが、毎時間同じ時間に発車するようにしたんです。これ分かりやすくするために。だから、どの停留所も全部同じ時間にしたんです。それによって、能美根上駅のアクセス時間が悪い電車がちょっと増えちゃったということになりました。

3月16日にIRいしかわになります。ダイヤが改正されます。それを見据えてのみバスのダイヤも変更する予定で、できるだけ利便性を高くしたいと思います。

ただ、ちょっと課題があると思うのは、のみバスが来ました。この発車する10分前にバスが到着すると電車には乗れるんです。ところが、電車から降りた人はバスの便が悪い。だから、どちらを優先するか。金沢方面を優先すると、金沢から到着した電車に対して全部アクセス時間も短くできるんですけど、小松へ行く人にとってはちょっと時間が延びるんです。これをどうするか。どっちを乗って、どっちを降りるかということで、どちらを優先させるかすごく難しい問題抱えていて、どちらの利用者が多いかを調査しながら今ダイヤを決めていきます。1時間に1本しかなか運けできないので、接続よくできるようにしていきたいと思います。

【参加者】 バスの辰口方面のルートが一つ改正されたんですけど、それが不便で、アルビス前とか通らなくなってしまう、加賀産の道路を通るルートになりました。そうしたら、利用するのがますます面倒になった。乗車数はルート改善前と後では増えているのか、人口数とか世帯数で加賀産業道路のほうを通るようにしたの、2点お願いします。

【井出市長】 いろいろ調査をして、のみバスのルートや、どこから乗りますか、どこか

らどこまで乗りますかを調査して、それらを踏まえてダイヤ、ルートを全部決めています。調査だけでは足りないなので、実際に職員が乗って状況も確認しています。今のみバスは、どこから何人乗って、どこで何人降りたかが、バスにカメラがついているので全部分かるようになっています。それらの調査を踏まえて決めているんですけど、やはり漏れがあったり、実際に利用している人で不便になったという声も聞いているので、それを網羅していきたいと思うんですが、なかなかお一人だけのためにバスは運行できないんです。やっぱり何人かの利用があってこそ公共交通は成り立つわけなので、実際に今ご希望のルートで時間で何人ぐらい乗ってもらえるか分かれば優先させてやることができますんですけど、そんな声を教えていただければ反映させますので、言ってもらえればと思います。

朝はどうされていますか。

【参加者】 朝は送っていきます。私が送っていく時間は、北鉄バスに乗って学生たちはみんな小松方面へは行っています。

【市長】 北鉄バスも今、運転手が足りなくて、見直しをかけている。昨日の新聞に小松空港から金沢へ行くのに1時間半待ちだと取り上げられていた。そういったところを優先されると利用者が少ないバスのほうを見直されていくので、そんなところも確保しながら利便性を図っていきたいと思います。

質問3

【参加者】 能美市の公式LINEですが、文字が送れるというのは先程見てたんですけど、例えば能美市とかで道路に木が倒れているとか、通学路なのに邪魔になっている車がいたとして、どこかに言いたいな、でもどこか分からないってなるのかと思うんですけど、LINEみたいなのを使って市民が撮影して送ることができたら、市もいろんなことがすぐ分かっているのかと思うんです。いろんな問題も出てくるのかもしれないですけど、そういうのもあるといいなと思います。普通のLINEと違って能美市のLINEの画面になったら文字は送れるけど画像が選べないので、送るときは自分の撮った写真を転送するかたちになるのでしょうか。

【市長】 LINEのリッチメニュー「暮らし」の「便利ツール」の真ん中辺りに「マイシティレポート」というのがあります。このアプリで送ってもらうことができるんです。

【参加者】 なかなかちょっと難しいですね。

【市長】 一度ダウンロードしていただければすぐにレポートしていただけますし、市内

の町会長・町内会長さんは既にタブレットを持っていて、そうやって伝えるということも皆さんご存じですし、ぜひ皆さんも使ってみていただければと思います。

質問 4

【参加者】 孫が今東京にいるんですけど、この間帰って来て遊びに行きたい。でも、遊びに行く場所が能美市にはない。ふるさとミュージアムは小さい子どもにはちょっと無理かもしれない。なので、小松の「カブッキーランド」と「ハレノチクモリ」という平日キッズが遊べる場所に予約を取って行ってきたようです。

能美ふるさとミュージアム、今年10万人来場者があったということで私たちも薦めているんですけども、やっぱり1歳半にはちょっと難しいらしくて。施設の中にキッズコーナーが、本当に小さい子どもたちがふわふわと遊べるような場所をつくってもらえないかなと思っています。

【市長】 「のみつけ」という場所が能美ふるさとミュージアムにあるんです。結構人気あるんです。古墳の形をしたクッションがあったり、カエルの卵にぶら下がって遊んだりできる。カブッキーランドとは趣旨も違うので何とも言えないですが、ないことはないかと思います。

【参加者】 イオンモールとかへ行って、ふわふわとジャンプしたり、ボール投げをしたり、木育というか積み木で遊んだりとか、滑り台もあるようなそんな施設を今の若い人たちは望んでいるようなので、そういったものもあるとありがたいと思います。

【市長】 どういった施設を次に造ろうかというのはあるんですけど、実は能美市の児童館、みんなすごい人気なんです。例えばいしかわ動物園に遠足に行く予定だったのに、雨降って行けなかったら能美市の児童館に遠足に来ている事例もたくさんあったり、市内のお子さんを持っていらっしゃる人は、結構児童館や子育て支援センターを使われていていっぱいなんです。だから、ないのは今おっしゃったような、ふわふわとしたやつだとか、大きなジャングルジムだとかがないので、次造るんだったらそういったものかなという思いはあるんです。あとはどの順番にどの施設を造っていかうかという話です。もうちょっと順番待ちだということをご理解いただければと思います。

質問 5

【参加者】 新幹線の折り紙でギネス記録に挑戦の取り組みがすてきだなと思って。多分

2024年3月に枚数合わせてるんですね。どういういきさつでできたのか知りたいです。子どもたちの脳と指先って関連しているので、折り紙ってすごい大事なんです。お年寄りの方が折ったときにやっぱり難しかったんですけど、説明しながらなら皆さんできました。すごくいいなと思ったのは、もし達成しなかったとしても、飾ったときに自分の折ったものが1枚でもここに入っている、参加ができたっていうのはすごくいいと思います。社会福祉協議会に声かけてもらったりしたらもっと活発になるかと思っているんです。

【市長】 実は結構活発で、今紙がないって叱られているんです。欲しいけど紙がないって叱られるぐらい活発なんです。ちなみに20,243枚を準備しているんですけど、2024年3月って大変単純な数字で、出来上がったものをこの庁舎に来年の3月30日に飾って、それでギネスの調査員が来て、本当に世界一の記録になるかを審査されて登録される、そんな段取りです。

質問6

【参加者】 車にひぼ能んとかゆず美んとかの絵を描いたステッカーみたいなものを時々見かけます。かわいいなと思って。例えば車に貼るようなかわいいステッカーとかあったら、みんな車に貼って能美市をPRできると思うんですけど、どこかで販売しているんですか。

【市長】 引っ越してきた方や、出産されたかにお渡ししているんです。この間、とあるタウンミーティングのときにこれが欲しいというお話がありました。それを今協議していて、本当に皆さんが一生懸命つけてくれるというなら考えようと思っています。皆さん、能美市が販売するとしたら、いくらだったら使ってもらえるか、一度検討します。

【参加者】 ありがとうございます。ぜひ期待しています。

6. 能美市女性協議会長ご挨拶

7. 閉会